

博士論文要旨

KIBS 埋め込み型高価格・高付加価値製品の生産と拡大の現代的意義についての一考察 —GVC を通じた供給システムと所得格差による市場形成—

立命館大学大学院経済学研究科

経済学専攻博士課程後期課程

ワラガイ タツシ

藁谷 達至

我々は生産力を増大させることで経済発展を遂げ、実質所得を上昇させている。これにより必需品を購入して余る所得が拡大し、消費構造は食料・衣料、耐久消費財、サービスへと高度化する。そのような発展経路を辿りながら、近年、価格よりも製品の質や機能を重視する需要が高所得国を中心に拡大してきている。この条件下では、企業が当該製品の質や機能に対する需要に応じてより高い価格設定が可能で、付加価値を高めることができる。よって、このような製品を HVA (High Value-added) 製品とする。そして、高所得国での HVA 製品需要の増大は国内だけでなく海外からの輸入も誘発するに至り、ひいては、HVA 製品を生産・輸出する国（それを比較優位とする国）の存在を認識することになる。

この HVA 製品は、例えば、基本的な機能を備えた自動車が自動運転車へと変貌するように、既存の製品が製品進化を遂げて高品質・高機能化することでもたらされる。また、製品進化には分野を超えた（最近ではソフト化した）技術・知識が求められ、その近接領域の事業体との共同開発、いわばオープン・イノベーションが必要になる。つまり、HVA 製品生産はカスタマイズされた高度で緻密なソフト形態をとる知識集約型ビジネス・サービス (Knowledge-intensive Business Services: KIBS) 部門からの投入を要する。

したがって、KIBS 部門からの知識サービスの投入が HVA 製品の生産・輸出に不可欠となり、その比較優位形成と重要な関係を持つと考えられる。比較優位は一般的に費用節約的で世界市場で価格競争力のある製品が念頭におかれてきたと言える。ところが、HVA 製品は標準化あるいはコモディティ化でコストを下げるのが本質的に困難である。よって、その相対価格は高止まりする、一見競争力のない製品である。

そこで本研究の目的は次を明らかにすることとなる。すなわち、KIBS 搭載型 HVA 製品が成熟先進国で比較優位を形成しつつあること、またこれはその輸入国が想定されており、そこでは HVA 製品の需要拡大と輸入増加が所得格差を前提に実現していること、最後に、この HVA 製品の生産過程は GVC (Global Value Chain) を経由して相対的に低技術な周辺国を包摂し、GVC 全体から見た場合、KIBS 生産国の付加価値高占有率を示すことである。方法は概ね計量分析をベースにしているが、貿易統計からの情報を基に独自の図表を作成して実証した。その流れは以下のようなものである。

第 1 章では高所得国でサービスに比較優位をもつアメリカを対象とし、HVA 製品需要をその輸入額として従属変数に据え、重力モデルをベースとした推計式を用いて主に所得格

差との関係について分析した。実証結果より、アメリカは特に所得の上位層と中間層間の所得格差の拡大が HVA 製品の輸入量を増加させているといえる。これは、高所得国が有利な交易条件を背景に HVA 製品と相対的な低価格製品を輸入して低所得層の実質所得を上昇させることが容易なため、「持続的な」格差拡大の条件が与えられることによると解釈できる。

これを踏まえて、第2章では、アメリカ市場へ輸出される HVA 製品が比較優位化する際の KIBS との関係性を明らかにした。従属変数として各部門について輸入国アメリカ市場の輸入割合を比較優位指標として設定し、一般的な比較優位の決定要因、つまり（労働に対する）物的資本比率、人的資本比率に KIBS 比率を加えて推計を行った。結果は、製造業部門により違いがあるものの、総じて本研究の中心仮説、KIBS 部門からの中間投入が HVA 製品の比較優位化に積極的な影響を与えるというものであった。

ただし、第3章で欧州の HVA 自動車生産を焦点に明らかにしたように、HVA 製品生産は一国で完結するものではない。特に、その GVC を発達させているドイツは、KIBS を含んだ HVA 製品の開発や中間財生産を行い、中東欧諸国での労働集約的な組立工程を経て再び輸入し、ドイツ産ブランドを付与した HVA 完成車を、特にアメリカへと輸出する経路をもつことが明らかとなった。また、この経路を通じて、ドイツは当該 GVC 内の付加価値占有率を最も高め、GVC の中間段階を担い（ある意味ではスマイルカーブの中間段階を担う）知識集約度の低い中東欧諸国は言うまでもなく、HVA 製品 GVC を発達させていない他の欧州先進国よりも顕著に付加価値を増大させている。

したがって、本研究は、KIBS が高付加価値と高価格をもたらす高技術が埋め込みソフトとして中間投入されることで HVA 製品が誕生し、さらに比較優位の地位を獲得している実態を証明した。HVA 製品需要の増大には所得格差の拡大も関係するために格差構造の是正という政策課題を残しつつ、その需要を前提とした KIBS 埋め込み型 HVA 製品の拡大過程は、新たな経済発展の一側面を作り出していると言える。

今後の主な課題は次の通りである。①論者によれば低所得層の所得改善を述べるものもあるが、事態は明らかに「低所得者としての生活を固定化」させる方向に進展しており、すでに解明した欧州を GVC で包摂した HVA 製品生産とこの需要構造をいかに考え合わせるかという、難題が見えている。②KIBS は ICT 等の技術に関する T-KIBS と法律・会計等の法知識に関する P-KIBS に分けられる。例えば、インドは ICT 知識集約度が高い一方で、組織間取引を円滑化するための法制度およびそれに関連する P-KIBS が未発達であるがゆえに、当該国知識が HVA 製品に結実しない可能性がある。ただし、これらの関係性は未だに明らかにされていないため、詳細な分析・議論が求められる。③また、KIBS は地域という活動空間をもつ。各地域の固有性（社会的フィルター social filter）は、そこでの技術集約度や生産形態だけでなく法や慣習等によっても規定され、発展を促進する要素と阻害する要素両方を包括する。よって、より具体的に今日の経済発展の特徴を明らかにするためには、②と関連して、地域に賦存する知識が KIBS を介して HVA 製品に結実することのできる地域の社会的フィルターの条件について、より具体的に詳細な分析を行う必要がある。